

『VE実践論文』 随時受付のご案内

弊会ではVE全国大会向けに毎年「VE実践論文」を募集し審査を行っておりますが、それとは別に、随時で「VE実践論文」の提出を受け付け、査読をいたします。査読で採択となった「VE実践論文」は、原則として弊会が発行する「バリュー・エンジニアリング」誌（電子版）に掲載することで「発表」とさせていただきます。

「VE実践論文」とは、

- ・ VE実践活動を通じて得られた創意・工夫をまとめたもの
- ・ VEに関する技法について、モデルケースやシミュレーションにより検証し、実務への適用を提案するもの
- ・ VEに関するアンケート調査等により得られた情報にもとづく考察をまとめたもの

など実務に即した内容で、必ずしも学術的研究プロセスを経たものでなくても可とします。論文テーマ例、論文評価項目を含む募集要項は、次頁以降をご参照ください。

バリュー・エンジニアをはじめ、企業や公共機関の方々、研究者、コンサルタント、学生など、多くの方々からの論文ご提出をお待ちしております。

お問い合わせ／お申し込みは

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会

〒154 - 0012

東京都世田谷区駒沢 1 - 4 - 15（真井ビル 6F）

TEL. 03 - 5430 - 4488 / FAX. 03 - 5430 - 4431

URL : <http://www.sjve.org> / E-mail : conf-paper@sjve.org

～『VE実践論文』ご執筆にあたって～

1. 論文テーマの一例

- * ○○分野へのVE適用事例の効果及び今後の可能性
- * ○○業におけるVE適用事例にもとづく○○に関する考察
- * ○○製品の開発VEに応用した○○手法の効果に関する考察
- * ○○業務へのVE適用と成果拡大のための方策
- * VEと○○手法の融合活用に関する試行と考察
- * VE実践における○○の課題に対する効果的な解決策
- * VEと○○に関する実態調査に基づく考察
- * イノベーションを促す効果的な創造プロセスに関する提案
- * 公共分野における価値向上の事例と波及効果 など

2. 査読申し込み方法

(1) 申込の方法 次の5つを本会事務局に E-mail 又は FAX でお知らせください。

- ①論文テーマ ②論文要旨 (150 字～200 字) ③執筆者氏名 (個人名のこと)
- ④連絡先 (会社名、所属・役職名、所在地、電話番号、E-mail アドレス)
- ⑤論文原稿 提出予定日

※論文要旨について予備審査を行います。

予備審査を通過した方には、折り返し原稿執筆ガイド等をお届けいたします。

(2) 原稿の作成

- ①A4 判の白紙を使い、MS-WORD で作成してください。
- ②A4 判 1 頁につき横 40 字、縦 40 行で、10 頁以上 12 頁以内 (図表を含む) といたします。
- ③図表は鮮明なものを見やすい大きさに本文中に挿入してください。
- ④MS-WORD 及び PDF の 2 つのファイルをご提出ください。

※原稿は、図表を含め一切返却できません。

3. 査 読

(1) 査読は、「論文審査部会」より 2 名の査読委員を選出して行います。

(2) 査読では、次頁の評価項目に従い、査読します。

(3) 論文原稿提出後、2 か月以内に査読結果をお送りします。

(4) 内容のさらなる充実を目的に、原稿の一部修正を求めることがあります。その場合は、修正の要請を尊重し、修正していただきます。

(5) 修正の要請通りに修正いただけないと判断した場合は、不採択となります。

※修正の要請は、原則 3 回までを想定しています。

4. 発 表

採択となった場合は、電子版技術情報誌「バリュー・エンジニアリング」に掲載いたします。

なお、掲載にあたっては掲載料として 22,000 円 (消費税込み) を請求させていただきます。

5. その他

(1) 採択論文は、選考のうえ VE 全国大会発表論文として VE 全国大会実行委員会へ推薦されることがあります (発表に際しての諸費用は自己負担となります)。

(2) 採択論文は、選考のうえ SAVE 国際大会発表論文として SAVE International (米国 VE 協会) に推薦されることがあります (発表に際しての諸費用は自己負担となります)。

(3) 学術論文としての発展が期待できると審査委員会からコメントを受けた論文は、日本システムデザイン学会への (洗練化後の) 論文投稿を推薦致します。(ただし Accept を保証するものではありません。)

VE実践論文の評価項目

1. 論文としての形式

- ・記述内容に誤りやあいまい性がないか。
- ・実践論文の要旨が明確に記述されているか。
- ・論旨の展開(論文としての起承転結)が明確であるか。
- ・図表、文体が簡潔でわかりやすいか。

2. VE実践論文としての説得性・内容の有用性

- ・実践論文としての成果(主張)が文中に明確に述べられているか。
- ・文中で示されたVE活動成果が(当該)産業界の社会的課題に込えているか。
- ・文中で示されたVE活動成果は当該分野・製品以外にも波及効果が望めるか。
- ・VE・並びに関連手法の実務上の改良・改善の工夫がみられるか。

3. VE実践論文としての適性度

- ・VEの機能分析の視点、機能本位の創造思考、代替案の変更点・特徴や価値保証・改善効果、VE管理などについて適切に言及されているか、など。

主に上記評価項目により総合的に評価の上、採択の可否を厳正に判断いたします。

VE実践論文の留意点

- ・VEを実践した内容を丁寧に説明していること
- ・実践的な裏付けに基づき考察が述べられていること
- ・根拠不十分な仮説のみで自己PR型論文を展開しないこと

以上